



# News Letter ☆ PIANC-Japan

## 国際航路協会 日本部会ニュース

March 2009 (Vol.08-3) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

会議等出席報告

### PIANC Secretary meeting 及び Council meeting 出席報告

事務局長 柳 生 忠 彦

平成21年2月5日に開催された Secretary meeting と7日に開催された Council meeting に出席したのでその概要を報告する。

PIANC 本部はベルギーの首都ブラッセル市内北部の北駅近くのビジネス街に建つビル(写真-1)の11階にあり、会長、事務局長の夫々の部屋と女性秘書3名が執務している2つの部屋があるこぢんまりとした佇まいであった。

Secretary meeting の出席者12名(うち女性が3名、そのほか欠席の断りは8名)のうちアメリカと日本を除いてはヨーロッパからの参加者であった。ヨーロッパ諸国は距離的に近く、日帰りで会議に参加している人がいるなど、PIANC の活動へ手軽に参画出来る環境の違いを実感させられた。会議の議事内容は別途、PIANC-Japan のホームページに掲載するので、詳細はそちらに譲ることとし、ここでは会議全体の印象を紹介する。

本部ビルの会議室において、本来司会をするようになっていた本部事務局長が不在であるということで、Eede 会長の司会で会議が進められた。最初に会長から「Secretary meeting は一時廃止されていたが、今般、次のような理由から再開されることになった」との説明で会議が始まった。

- ・各国の事務局長の多くが交代したので、事務局長の役割についての認識を共通にする必要がある。
- ・事務局長は各国の活動を維持する重要な役割を担っている。

・事務局長はPIANCの広報活動に重要な役割を果たしており、本部との十分な意思疎通が必要である。

参加人数が少ないということもあり、議事の説明などの中で、出席者は気軽に気の付いたことや意見を出し合うという雰囲気、シナリオの決まった会議とは違い実質的な提案などが行え、途中でコーヒブレイクなどを挟みながらのリラックスした会議であった。

日本からは、2009年からの会費の引き上げのプロセスがルールに則っていないことについての本部との事前のやり取りがあったこともあり、その問題での発言をした。イギリスも同様な疑問を持っていたことがその場で分かった。事務局には会費引き上げの経緯説明とヘルシンキAGAでの正式決定を求めること、及びそれらを記載したレターを日本に出すことを求め、これらが了承された。

もう一つの課題は現在、フレミッシュ政府(ベルギー政府の一部)の職員が兼業で行っている事務局長(Van del Schel氏)について、同氏がその任期を迎える2011年以降は専任の事務局長を選任し、現在女性秘書任せにしている事務局業務の強化を図りたいとの提案である。このためには年間€25万の予算が必要になるとのことであった。これに関して、Council meeting において、予算確保の見込みがあるのか、再度の会費引き上げにつながらないのかと正したところ、関連機関誌の合併などによって諸経費の節減を図るなどで対応するとの説明があった。

Promotion Commission (ProCom)からは、PIANCのあり方や広報を如何に行うべきかとの検討をコンサルタントに行わせたことと、その成果が凡そまとまったので、各国部会において、その成果を活用して、各国のマスコミなどを通じたPIANC活動の積極的なPRを行ってもらいたいとの説明がなされた。ProComの活動成果の一つとして、PIANCの機関としての名称を“International Navigation Association”から“The World Association for Waterborne Transport Infrastructure”にすることになったとの紹介もあった。

2月6日には本部ビルの会議室において、会長、副会長、各Commissionの委員長等が出席してExCom meetingが開かれ、2月7日にはCrowne Plaza HotelにおいてCouncil meetingが開かれた。Council meetingには25名(欠席の断りは18名)が参加し、ExComあるいはSecretary meetingで議論されたことなどを中心に議事が進められた。短い時間で多くのことを検討するため、会長や事務局の説明が中心となっていたが、イギリスやノルウェーなどからは質問や議論が頻繁に提起されていた。この2国はいつもこの様な状況らしい。

目立った問題は、会費問題を始めとする予算の内容、プラチナ会員などの勧誘、副会長や委員会の委員長の指名に係るものであった。そのほか、最優秀部会賞の評価項目の見直しやDe Paepe-Willems賞への応募が今年は3件しかないなどに関連して応募要件の見直しなどの議論があった。さらに、事務局長職の募集要綱、ヘルシンキAGAでの宣言文に対する意見などの提出も求められた。

政府代表代理の森川副局長からは、PIANC125周年記念イベントを名古屋で2010年9月10日～14日(Opening Ceremonyは12日に開催。その他、セミナー、委員会、見学会等を開催する)に開催することを正式に発表した。

私にとっては初めての会議出席であったが、アジアのプレゼンスを示すためにも出来るだけ積極的に発言をするように心掛けた。2時間近く掛けての昼食時には、ワインを”ゴックン”“しながらのおいしい食事でお互いのコミュニケーションを図るなど、いかにもヨーロッパ風の国際会議の雰囲気味わいながらの会議を経験することが出来た。



写真-1 PIANC本部のあるビル



写真-2 Council meetingの様子

## 125周年歴史書編纂作業部会（HisCom）に出席して

HisCom 委員 野田節男

PIANC は 2010 年に創立 125 周年を迎える。世界各地で記念行事が計画されているが、その一つとして PIANC 活動を綴った歴史書を作成することとなった。過去には 1985 年の 100 周年の際に、活動の歴史、技術的事項を詳述した 970 ページにおよぶ大著が刊行されている。今回の書籍は、PIANC 会員以外の人々にも理解され易いように、PIANC が国際的な非政府組織として長年にわたり世界の水運技術において指導的役割を果たしてきた活動と共に、この分野の関連技術の発展の状況などを簡潔な表現と多くのカラー写真・図で示し、全体で 150 ページ程度となる予定である。

作業の経緯は、2006 年 10 月の Council の際、歴史書刊行の企画が持上がり、直ちに事務局長、ベルギー、オランダ、イギリス、日本の有志による Kick-off meeting が持たれた。そこでは、出版目的、目次の概略、総ページ数、英語・仏語の 2ヶ国語出版、作業スケジュール、作業部会メンバーの候補者などの基本案が描かれた。その後、2007 年 3 月の第 1 回 HisCom にて TOR が示され、2 年間の活動を経て、今回の 2009 年 2 月の第 6 回 HisCom 最終会合に至っている。

我が国に関する記述としては、既存の資料を参考とした他、①日本部会の歴史（山下博通氏、大久保喜一氏、御巫清泰氏へのヒアリング）、②1995 年大阪 Congress（元大阪府の佐藤寛氏からの資料・写真）、③日本・オランダ交流 400 周年記念シンポジウム（御巫清泰氏からの写真）、④代表的技術（関西海上空港：関西国際空港会社資料、釜石津波防波堤：東北地方整備局資料）、⑤国際協力（港空研の

野津厚氏による 2001 年インド西部大地震・カンドラ港の被害報告）等を活用させていただいた。

小生は、Kick-off meeting、第 1 回および最終回の 3 回に参加したが、その他はメールで役割を果たすことが出来た。HisCom メンバーは、委員長の Brotsma（オランダ事務局長）以下、De Paepe（ベルギー、前会長）、Ballentine（元アメリカ事務局長）、Chapon（フランス、元副会長）、Gillespie（イギリス、元副会長）、野田（日本、元副会長）、Oliver（フランス、CoCom 委員）、Tzschucke（ドイツ、名誉会員）の 8 名と陪席メンバー Van Schel（事務局長）である。いずれも長年 PIANC に関わり互いに気心の知れた‘古参’会員なので、各自の役割分担も順当に決まり、広範囲にわたる資料収集作業も殆どメールのやり取りでスムーズに行われた。今回の最終会合では、8 名のメンバーによる 2 日間の缶詰め作業を行い、表紙から最終ページの謝辞に至るまで全ページにわたり逐一内容を吟味し、不備部分の修正や対応策を決定した。

本書は 125 周年記念 Congress が開催される直前の 2010 年 4 月に刊行予定であり、印刷部数は英語 5000、仏語 1500、総費用は 750 万円を想定している。本企画は本部からの財政支援を期待しない独立採算であるため、残された最大の課題は出版費用の捻出である。対応策として、本の前後に掲載する広告料、Congress 出席の参加費に含める、各国の部会が PR 材料として大量に購入する等が検討されているが、何れの方法とするかは本年 5 月の ExCom で審議される予定である。



右から、Tzschucke (ドイツ)、Gillespie (イギリス)、Brotsma (オランダ)、De Paepe (ベルギー)、Chapon (フランス)、Oliver (フランス)、Ballentine (アメリカ)、野田 (日本)

---

## 各 WG の進捗スケジュール紹介

### 1. 海港委員会 (MarCom)

MarCom 委員 加藤 一正

#### ◎Marcom の開催と WG53 (津波) の成果の発表

2008年10月10日に、イタリアのパレルモ(シチリア島)でMarCom会議が開催されました。この委員会において日本が中心となって活動してきましたWG53「Recommendations with regard to mitigation of tsunami disasters in ports」のDraft Reportの発表を、chairmanである高橋重雄研究主監(港空研)が行いました。WGは第一回会議開催後2年以内に成果の発表をMarcomで行うというルールにもほぼ従いました。これは特筆すべきことです。というのは、WGの報告発表が2年を越えるのが一般的だからです(下表参照、2009年以降のPはあくまで予定であり、この予定が毎年先送りになる傾向があります)。

WG53は、MarComの他の過去および現在のWGと比べて極めて特異な存在でした。「津波」がテーマだったため、WGの会議の開催場所はすべてアジアでした。津波常襲国からの参加者の中には、彼らも彼らの国もPIANCメンバーでない方もいました。また参加者自身で旅費などの資金を十分に準備できない場合が多かったために、港空研・沿岸センター・国交省港湾局が主催している国際沿岸防災ワークショップと連動してWG会議を開催したり、インターネットを活用して意見・情報交換を行う等、国内関係機関とWGメンバーの大変な努力によりDraft Reportが取りまとめられました。

今後に残された詰めは、Draft Reportのページ数が100ページを越えているので、MarComの意見を反映しながら、これを最終報告書(50ページ以内)にまとめるということです。MarComメンバーとして2003年から計10回の会議に出席させていただき(すべてヨーロッパで開催)、またWG53のメンターであった私にとっては、これで一区切りつき、役目を果たせたという気持ちです。



発表を行う高橋研究主監

#### ◎現在活動中のWGとそのスケジュールは下表の通りです(2008年10月時点)。

WG	WG名 (和文訳の略称)	日本参加者	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10
47	防波堤型式の選択	下迫(港空研)	A	K					P	
48	船首推進機対策		A	K			P		S	
49	航路諸元	大津(東京海洋大学)		A	K				P	
50	港湾構造物設計	長尾(国総研)			A	K				P
51	水注入浚渫				A	K			P	
52	荷下ろし基準	米山(港空研)			A	K			P	
53	津波	高橋、富田、有川(港空研)			A	K		P		
54	海象・気象情報の活用	河合(港空研)				A	K			P
55	石油・ガスタンカーの接岸					A	K			P
56	ジ・ボキスタイルの適用					A	K			P
57	護岸被覆の安定性					A	K			P

表中記号の見方 A: ExCom 承認 K: Kickoff meeting P: Presentation Draft Rep.  
S: Send final report to Brussels(最終報告書をPIANC本部に提出)

2. 環境委員会 (EnviCom)

EnviCom 委員 中村 由行

現在取り組んでいる活動の概要：

平成 20 年 1 月 31 日及び 2 月 1 日にベルギーのブリュッセルで第 28 回 EnviCom 定期会合が開催され、次いで同年 9 月 25 日及び 26 日にフランスのストラスブールにて第 29 回定期会合が開催された。第 29 回からは、日本の代表として三井共同建設コンサルタント(株)鶴谷氏から、港湾空港技術研究所の中村が引き継ぐこととなった。また、環境委員会の議長は 20 年から新たに Harald Koethe が務めている。第 29 回会合では、各国メンバーとして米、加、日及び欧州各国から 11 名が参加し、さらに関係メンバーとゲストを含め合計 18 名が参加した。

EnviCom の戦略テーマとして、先の鶴谷委員の報告にもあるように “Working with Nature” を掲げ、将来 PIANC で環境を扱うに際しての、新たな哲学を提示する作業が鋭意進められている。第 29 回会合では、参照とされたオランダの関係各機関による “Building with Nature” に基づく活動内容が紹介され、定期会合での審議及びその

後のメール審議にて委員会としての文案はほぼ確定した。EnviCom としては、平成 22 年のコンGRESにおいて、全ての委員会共通の概念としてのポジションペーパー (PP) を提示する予定である。PP の概要については、先の鶴谷委員の報告を参照されたい。

最近の EnviCom での議論の大半は、浚渫と環境の問題をどう克服するかであり、関連してマルポール条約や、中村も参加したロンドン条約科学者会合での議論や活動内容が紹介され、EnviCom としての対応方策が審議されている。また、地球環境問題との対応が TG の活動としても進められようとしている。

新しい WG として、“Onshore power supply” を IAPH と共同で立ち上げることとなり、2009 年の定期会合直前にそのキックオフ会合が開催されることが決まった。また、浚渫船のバラスト水の処理問題、TBT の環境に与える影響などについても考慮中である。各ワーキンググループの概要と活動状況は次のとおりである。

WG	WG 名 (略称)	概要	日本参加者	'06	'07	'08	'09
11	浚渫土の管理と既設処分場の転換	浚渫物の最終利用に対する長期管理、再利用及び既設処分場の転換に関する実用的な国際技術ガイドラインの作成	菊池、渡部 (港空研) 一次原稿を修正中		P	S	
12	航行面と洪水管理の観点にたった持続可能な水路	内陸水路における洪水管理と増大する貨物量の管理に対する技術対策の必要性	近いうちに原稿が完成する予定			S	
13	浚渫プロジェクトにおける環境保護のための最適管理手法	浚渫工事及び浚渫土処分に伴う環境への影響を、適正に管理/緩和するための施工方法、管理手法について、包括的評価と最適な管理手法の検討	藤野 (日本埋立浚渫協会)		P S		
14	浚渫物の有効利用、利用法と阻害要因	浚渫土砂の有効利用ガイドラインの作成	細川 (WAVE)、古川 (国総研) 原稿は完成	P	S		
15	さんご礁の周りの浚渫工事と港湾建設	サンゴ礁における浚渫と港湾建設のガイドラインの作成	山本 (エコー) 原稿はほぼ完成	K		P	S
16	魚介類生息のための港湾、水路の管理	港湾、水路の管理と魚介類の生息地との対立問題点の調査と重大な問題に効果的に対処する方法	桑江 (港空研)	A	K		
TG3	気候変動と船舶航行	船舶輸送、港湾及び運河に関する気候変動の影響と緩和策についての現状の把握	鈴木 (国総研)		A K	P S	

I. 本部より 2008 年 10 月に開催された Secretary Meeting, Council Meeting の議事録が送られてきましたので、その議事録と概要をお知らせ致します。

## 1. 事務局長会議 (Secretary Meeting) の概要

(1)開催日：2009 年 2 月 5 日

(2)場 所：ブラッセル (ベルギー)

(3)参加者：14 名 (会長、各国事務局長、日本からは柳生事務局長が参加)  
(欠席者：8 名)

### (4)概要

(i) 会長より事務局長会議の再開理由とその役割の重要性について報告がされた。

- ・各国事務局長の多くが交代し、事務局長の役割についてもっと認識高めて貰いたいこと。
- ・殆どの国において各国事務局長は、その国の活動を維持する重要な役割を担っていること。
- ・各国事務局長は ProCom の活動 (PIANC の PR) 実施の役割を担っている。

(ii)PIANC の組織について

① PIANC は、会長も事務局長も PIANC 以外にフレミッシュ政府に常勤の仕事を持っている。

- ・現会長(Van den Eede)、事務局長(Van Schel)とも 2011 年に任期を終える。事務局長は、現在の非常勤から常勤への移行を予定しているので、そのための資金確保が必要となる。

②Qualifying Members と National Section(各国部会)の関係

- ・これまで Qualifying Member は政府会員としてきたが、ここ 2,3 年規定(Statutes)で団体もその国を代表する Qualifying Member として取り扱ってきた。
- ・国あるいは団体は、まず Qualifying Member となり、その後、会員を増やし部会となる。各国部会の事務局は、その国の会員と PIANC 本部との橋渡しをすることになる。

(iii)事務局の役割について

①PIANC 本部への連絡(会員の入退会、住所変更など)

②機関誌、Sailing Ahead への寄稿の募集

- ・ Sailing Ahead は、協会内のニュース (技術委員会、Congress、AGA など) を扱い、機関誌(On Course)の News Section は航路に関する一般的なニュースを対象としている。
- ・ 最近機関誌(On Course)の記事は、AGA 主催国の特集号を除き少ない。機関誌(On Course)を廃止して電子 News Letter に統合する案を ExCom に提案する予定である。
- ・ WG レポートの電子化について約 400 人を対象にアンケートを行ったが、80%の人が印刷物と電子化の両方を望んでいる。従って完全な電子化への移行は時期尚早と見ている。

③PIANC の振興策

- ・ PIANC 本部は“イベント・カレンダー”を作成し、各国がそれに情報を提供することによって本部又は各国部会から人を派遣すること等が可能になる。
- ・ ④広告
- ・ 機関誌(On Course)の広告が 1979 年 18 件あったが、1989 年 14 件、1999 年 10 件、そして 2009 年には 1 件のみに減少している。原因は、内容が余りにも専門的になっているからと思われる。

④ 最優秀部会賞(Award Best Performing National Sections)

- ・ 昨年の AGA 後受賞基準を見直すことになり、会長、事務局長から新基準が提案された。ExCom で議論された後、2009 年から適用される。

⑤ De Paepe-Willems 賞

- ・ 論文募集の努力にも係らず 2009 年の応募論文は 3 件だけであった。これは、最近のプロジェクトは個人でなく集団の仕事となり、全くオリジナルな応募論文を出すのが難しいからであろう。

(iv) 財政

① 会費について

いくつかの部会の中には 2009 年からの会費値上げに対して問題視するところがあった。2009 年の予算に会費値上げを見込み、2008 年 5 月の AGA 北京大会で承認されたが明確に示されていなかった。次回値上げからは、Council と AGA で明確に議題として取り上げることにする。本部は日本部会に値上げに関する公式の手紙を出すことにする。

② プラチナ会員について

- ・ PIANC 本部は、プラチナ会員の会費を値上げする。また、新たに 'Golden Partners' を創設することを考えている。
- ・ 今後副会長に立候補する人は、プラチナ会員を入会させなければならない。

(v) Qualifying Member、部会の勧誘

- ・ 4 月 21-24 日にモスクワにおいて 'TransRussia-14<sup>th</sup> International Transport & Logistics Exhibition & Conference' が開催される。本部から会長及び事務局長が出席し、ロシア政府が再度 Qualifying Member になるよう説得する予定である。
- ・ 日本部会の柳生事務局長から、日本は中国に対し部会の活動を活発化しよう努めている旨の報告がなされた。

(vi) ProCom (Promotion Commission) について

- ・ 2007 年 AGA Kochi(インド)大会で ProCom を設立、会員を増加させるための新たな方法の確立及び近い将来事務局長が常勤となった時に支払う資金確保を目的として設立された。このため、コンサルタント(Hill & Knowton)を雇うことを決めた。
- ・ 本部と Hill & Knowton は、昨年精力的に研究した結果、協会の存在をもっと明確に世界に訴える手段(パワーポイント、新会員募集ハンドブック、レターヘッド・名刺の雛形など)を開発した。近々本部から各国部会に連絡する予定である。

## 2. 60<sup>th</sup> Council Meeting の要約

(1) 開催日：2009 年 2 月 7 日

(2) 場 所：ブラッセル (ベルギー)

(3) 参加者：25 名 (ExCom メンバー、各国政府代表他、日本から森川雅行氏 (近畿地方整備局副局長：須野原港湾局長代理)、柳生忠彦氏 (PIANC-Japan 事務局長) が出席)

(欠席者 18 名)

(4) 概要

(i) 59<sup>th</sup> Council Meeting の議事録の承認

(ii) 行動計画の進捗状況

- ・ 会長及び ExCom メンバーの年齢制限に関しては、現在検討中。
- ・ 事務局長の職制表は次回 Council Meeting までに作成。
- ・ 'Golden Partners' の創設は、現在検討中。
- ・ プラチナ会員の勧誘については次回 ProCom で検討。
- ・ 機関誌、WG レポートなどの印刷発行については、次回 ProCom、ExCom、Council



において検討。各国部会が使用可能な toolbox (広報等の活動のための資料提供) を近々作成。

(iii) AGA 承認のための議題

①副会長の指名について

会長からスペインの Mr. Macario Fernandez Alonso Treuba の推薦があり、承認された。

②RecCom 議長の指名について

会長から Mr. Elio Ciralli の推薦があり、承認された。

③CoCom 議長の指名について

CoCom 議長には、現在適当な人がいないため、会長より AGA(ヘルシンキ大会) で指名出来るよう各国部会に至急候補者の推薦を要請した。

④Y P Com 議長の指名について

会長からポルトガルの Mr. Vasco Borges Nunes の指名があり、承認された。

⑤2008 年決算が承認された。

⑥2009 年予算の承認及び 2010-2012 年活動計画は、AGA(ヘルシンキ大会) 前の Council(開催電子メール又は AGA の前に開催)で承認を得ることとする。

⑦規定の変更について

新事務局長及び ExCom メンバーの年齢制限と新事務局長との契約並びにその関連規定の変更。柳生事務局長より新事務局長の費用の質問があり、会長より約 250,000€掛るとの回答があった。

⑧2010-2014 年の戦略計画について

- ・各国部会は、3 月 15 日までにこの戦略についての意見を提出することになっている。AGA(ヘルシンキ大会) で承認を得ることになっている。
- ・各委員会はそれぞれの行動計画を精査し、2010 年 Liverpool 大会から実行に移す。

(iv)事務局長の募集要領

各国事務局は、2 月末までに募集要領についてのコメントを本部に送ること。

(v)プラチナ会員と'Golden Partners'

各国部会は、プラチナ会員 (会費の値上げの予定) と'Golden Partners'の会員勧誘に務める。

(vi)広報政策

- ・会長より刊行物廃止の方向についての説明があった。主な理由は、機関誌'On Course'の記事が集まらないこと、航路に関するニュースが殆どないことによる。
- ・会長は AGA 主催国の特集を除く全ての刊行物を電子化したいと考えている。また WG レポートを電子化のみとし、誰にでも見ることが出来るようにすれば、PIANC の情報を世界に発信出来、PIANC への参加に繋がると考えている。
- ・新しい広報政策については、本部より次回 AGA(ヘルシンキ大会)までに提案書を作成する予定である。
- ・各国部会の国内イベントあるいは国際イベントをマスコミに公表する。その際各国部会は、PIANC の新しい広報資料(パワーポイント、パンフレットなど)を自国語に翻訳し使用する。
- ・イベント・カレンダーは毎年継続し、各国部会はイベントに関する情報を本部に知らせることにより国内及び国際レベルでの website による情報提供が可能となる。また、本部から誰を参加させたらよいか考えることが出来る。

(vii)事務局長会議の報告

- ・事務局長会議は、多くの各国部会の事務局長が交代し、PIANC の各種手続きについて周知徹底する必要が生じたこと、会員勧誘の戦略、新しい会費の請求方法、イベントカレンダーなどについて議論するために再開された。

・事務局長会議は、AGA の時に開催する。

(viii)2009 年 PIANC De Paepe 賞について

受賞者はオランダの Yvonne van Kruchten に決まった。会長から、かなりの賞金にも係らず応募者数が 3 名であったことに失望したとのコメントがあった。会長から De Paepe 賞の規定を AGA ヘルシンキ大会で変更するよう提案があったことが伝えられた。

(ix)国際活動

①2010 年 Congress(Liverpool)

準備は進められているが、浚渫関係を除いてスポンサーが見つかっていない。また現在の経済状況で、どれだけの参加者があるか心配されている。

②2012 年の AGA : スペインに決定

③世界水フォーラム(2009 年 3 月)

- ・世界水フォーラムにおいて PIANC は、3 月 17 日に 3 時間の単独セッション「舟運：持続可能な将来に向けて」を開催し、会長が議長を務める。日本からは、横浜国立大学の池田教授が発表することになっている。
- ・川嶋日本部会会長(PIANC 副会長)より皇太子殿下がこのセッションに参加されることが紹介された。

④Smart Rivers(ウィーン大会)

2009 年 9 月 6 日から 9 日まで SMART(Strategic Maritime Asset Research and Transportation for 21<sup>st</sup> Century River Systems)Rivers が開催される。会長より各国部会にこの会合の宣伝と参加者(発表者を含む)募集の呼びかけを依頼した。

(x)今後の会議予定

- ・2009 年秋の Council は開催されない。もし開催の必要がある場合には、AGA(ヘルシンキ大会)の前、あるいはインターネットによる会議を開催する。
- ・2010 年秋の Council は、名古屋で開催する。
- ・2009 年秋の InCom 及び ExCom は、Smart Rivers(ウィーン大会)の時に開催する。